

ID No.	3006
研究課題名	腸管における免疫環境の構築と生体制御・疾患
研究代表者	國澤 純（医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）
研究組織	
受入教員	清野 宏（東京大学医科学研究所・教授）
研究分担者	長竹 貴広（医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員）
	鈴木 英彦（医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員）
	細見 晃司（医薬基盤・健康・栄養研究所・研究員）
	柴田 納央子（東京大学医科学研究所・特任研究員）
	神岡 真理子（東京大学医科学研究所・大学院生）
研究報告	<p>腸管リンパ組織内部に共生するアルカリゲネスに着目した研究から、アルカリゲネスはリンパ組織内で樹状細胞の内部に共生し、細胞自身の機能を変化させることで、腸管での生体防御機能を増強することを見いだした。さらに樹状細胞の機能制御にIL-22を介した生体防御システムが存在すること、過剰な炎症反応を起こさずに免疫を適度に活性化できる特殊な菌体構造を有することが判明した。これらは独自に見いだした組織内共生という新概念に対し、分子、細胞、個体の各レベルでメカニズムを提唱した研究成果となる。</p>